

## 当センターにおける膵神経内分泌腫瘍の検討

### 1. 研究の対象

2005 年以降に膵神経内分泌腫瘍あるいはその疑いで当院での検査・治療を受けた方

### 2. 研究目的・方法

膵神経内分泌腫瘍は、年間で人口 10 万人あたり 1.27 人の新規発症率である「希少がん」です。近年、超音波内視鏡検査などの画像検査の進歩により早期発見が可能となり、疾患概念が広がってきています。神経内分泌腫瘍は、悪性度や病態の違いによって neuroendocrine tumor (NET G1-3) と neuroendocrine carcinoma (NEC G3) に大別され、治療法も異なります。治療は、悪性度を示す KI index 値、転移の有無、転移の部位・数などの病状に応じて、切除、薬物療法、肝動脈塞栓術 (TAE) などが選択されます。膵 NET に対する本邦の薬物療法は、2011 年にエベロリムス、2012 年にスニチニブ、2014 年にストレプトゾシン、2017 年にランレオチドが保険承認されたことにより治療選択肢が広がり、治療経過にも大きく反映されています。一方で膵 NEC に対しては、プラチナ製剤を基礎とした薬物療法が行われますが、依然としてきわめて予後不良な疾患です。

本研究では、膵神経内分泌腫瘍あるいはその疑いで当院での検査・治療を受けた方について、患者背景、腫瘍の状態、治療法、副作用、臨床経過、検査結果などを後方視的に調査して様々な検討を行い、新たな知見を得ることを目的とします。

研究期間は 2019 年 9 月 (倫理審査委員会承認後) から 2026 年 8 月までの 7 年間です。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景 (年齢、性別、併存疾患など)、検査結果、治療法、治療効果、副作用、臨床経過など。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 高田 良司

-----以上